

ウザについて

1. 2サム6:1-11と1歴代誌13:1-14によると、ウザとその兄弟アフヨは神の箱をエルサレムに持って来る事において、重要な役目をもっていました。彼らはレビ人で神の箱の最も近くにいましたので(1サム7:1)、今まで動かした事はありませんでしたが、その務めに任命されました。

2. 1歴代誌15:11-15から、他の祭司が共に務めるべきでした。しかしそれがなかったのもので、車を使ったのかもしれませんが。それは民数記7:6-9に反していました。

3. ウザが、その事を知らないかのようにだったのはなぜだろうと、疑問に思うかもしれませんが。彼は何百年も前に書かれたモーセの指示よりも、神の箱が何十年前にペリシテ人の所から車で運ばれて来た事(1サム6:7-7:1)を、よく覚えていたからかもしれません。

4. 車を引いていた牛がつかずいた時に、ウザは神の箱が落ちないようにと手を伸ばしました(6:6)。それは計画的な事ではありませんでしたが、不敬な行ないでしたので、神様は彼をその場で打たれました。ウザは、神の箱が置かれてある家で長い間住んでいて、それに決して触れてはいけない事を、良く知っていました。おそらく箱を車に載せる時には、棒を使ったことでしょう。

5. ウザが殺されたのは、神の箱に触れた事によったのですが、最初の間違いがこの大きな罪につながり、彼の死を招きました。聖書的でない妥協は、最初は大丈夫と見えるかもしれませんが、さらなる妥協につながり、最後には神様の裁きをまねくこととなります。

ダビデについて

1. 2サム6章で、ダビデはとうとう全イスラエルの王となり、エルサレムに住んでいました(5章参照)。王として最初にした事の一つは、神の箱を新しい首都に持って来る事でした。彼は、彼自身と民のために、主の祝福を願っていたのです。

2. 神の箱を運ぶために、車を用意したのは誰だったでしょう。ウザか、他の祭司か、ダビデか？箱を運ぶ事は、王としての計画でしたから(6:1-2)、ダビデには、その失敗に少なくとも部分的に責任がありました。

3. 8節には、ダビデはウザの死に対して激したとあります。その怒りは主にに対してだったのでしょうか？それとも自分自身、または祭司達に対して？1歴代誌15:13で彼は、祭司達と自分自身を責めています。

4. ウザの死は、ダビデに大きな影響を与えました。その最たるものは、主への恐れでした(6:9)。それで、彼は神の箱をエルサレムに持って来る事を、長く延期しました。それによって主の祝福をすぐに受けることはできませんでしたが、少なくとも同じ間違いを繰り返す事はありませんでした。

5. 後にダビデが神の箱をエルサレムに持って来た時、彼は喜びを持ってそうする事ができました。6:12-14の喜びの様子を読む時、彼はウザの事を忘れてしまったような印象を受けますが、実際には彼は前の失敗と損失から多くの事を学んだのです。

ウザの死は.....

2サム6:1-11から、ウザの死について考えましょう。

() ウザのせいでした？

- () 神の箱にさわったから？
- () ウザは悪い人だったから？
- () 避ける事ができた悲劇？

() 他の祭司たちのせいでした？

- () 牛車を使ったから(民数7:6-9)？
- () 他の祭司たちが手伝わなかったから(1歴代誌15:11-15)？
- () 主を求めなかったから(1歴代誌15:13)？

() ダビデのせいでした？

- () ダビデのリーダーシップが悪かったから？
- () ダビデにとってショッキングだった (6:8-9)？
- () ダビデにとって大きな教訓？

() 考えさせられる事？

- () 多くの人に目撃された (6:5)？
- () インディ・ジョーンズの映画のように血なまぐさい？
- () 記念し、覚えられた (6:8)？
- () ナダブとアビフの死のよう (レビ10:1-3) ？
- () 空しくなかった？

適用

合っていると思うものには○、違っているものには×、どちらでもないものには△をつけましょう。

ウザの裁判？

もし、当時のイスラエルに現代のような裁判制度があったとしたら、そしてウザの兄弟アフヨや他の家族が、ダビデに対してウザの死に関する責任を求める訴訟を起こしたとしたらどうなったでしょう？裁判所はダビデの責任を認め、損害賠償をするように命じたのでしょうか？

ダビデの側の弁護士は、ウザの死は神様のわざであり、ダビデはどうすることもできなかった、と言ったかもしれません。また神の箱にさわって主の怒りをかったのは王ではなく、ウザであったと指摘したでしょう。そして彼らは証人を呼び、ウザは神の箱に触れてはならない事を前から知っていた事、それ故に彼の死は彼自身の不注意による事である、ということを示したでしょう。ウザの兄弟でさえ、彼らが何年も家の中で神の箱には触れないようにしていた事を認めたはずで

す。しかしウザの家族の弁護士は、神の箱を動かすことはダビデの考えであった事に焦点をおいたでしょう(6:1-2)。さらに、新しい車を使った事についても、王を責めたことでしょう。今日の裁判で、欠陥商品がよく訴えられるように、牛が引いた不安定な車が問題の根本で、ウザが触れたのは不可避だったと訴えたでしょう。

ダビデの弁護人は、こう反論もできたでしょう。車を使う事はダビデの考えでなく、ただ他の祭司達が手伝わなかったから必要になったと(1歴代15:13)。また、ウザとアフヨは喜んで車を使ったとも言ったかもしれません。もし彼らがその使用について疑いがあったのなら、それを使うことを拒否したはずだと。その車を使うのを受け入れた事は、その使用についての個人的な責任も受け入れる事です。

そのような裁判の結果は、どうなったでしょう。裁判官はダビデの弁護人を認めたのでしょうか、それともウザの家族の弁護人を？明らかに、両方の側に過ちがありました。ダビデもウザの死について、少なくとも部分的に責任がありました。ですから神様がウザだけを裁かれたのは、公平とは見えませんでした。

しかしながら神様の裁定は、神の箱に触れる事は重要な罪で、即座の死に値する事でした。箱を車に載せて運ぼうとした事自体は、それほどの罪とはされませんでした。それはおかしいと、ある人は思うかもしれません。しかし私たちは、エシヤ18章と19章にある陶器師のたとえの教えから学ばなければなりません。神様に不正はないということです。また、ヨブが大きな苦しみを通して学んだように、神様ご自身に対する正当な訴えというものは、ありません。

では、ダビデはどうですか？ダビデには何のとがめもないのですか？いいえ。彼は、主を求めなかったと認めています(1歴代15:13b)。後に、彼と他の人はウザの家族を進んで助けたでしょう。彼がウザの死から大きな教訓を受けたのは明らかです。神様のわざは、始めから神様の方法でなされなければなりません。一つの悪い妥協は常にそこで終わらず、次に続くものだからです。私たちも、それを自分の教訓、適用とすべきです。